

第二回雪山講習会 IN 伯耆大山

【報告者】K橋

【日時】2019年2月10日～11日 【天候】曇り時々雪

【参加者】F谷（L）、I富（SL）、I藤（SL）、K崎（監督）、H田、I本、K橋

《コースタイム》

2月10日 大山寺（10：00）～二俣（11：00）～
大堰堤（11：30）～元谷避難小屋（12：00）

2月11日 元谷避難小屋（6：30）～六合目避難小屋
（7：45）～夏道約1500m地点（8：30）～
六合目避難小屋～元谷避難小屋（9：45）
～大堰堤～二俣～大山寺（11：15）



《 報 告 》

実施内容：雪山歩行（アイゼン・ワカン）・ピッケルワーク（滑落停止・耐風姿勢）
雪崩対策（ビーコン・プローブ・埋没体験）・雪山テント泊の生活術など

〈0日目〉

第二回雪山講習会は、当初予定の三瓶山の雪不足により、急遽予定地を変更しての山行となった。前日2月9日昼より車での移動を開始し、その日は米子市内公園にて集合した後、仮眠。小雨、強風。

〈1日目〉

起床後、登山口駐車場へ移動するが三連休とあって、大変な混雑ぶり。なんとか身支度を済ませ、やや遅めのスタート。山中の雪は例年よりは少ないものの十分あり、ツボ足で雪山ハイクを楽しみつつ、元谷避難小屋へ。

小屋内も宿泊客で混雑していたため、予定通り付近に二張幕営。潤沢な新雪で、整地も一苦労。



テント内準備が整ったところで、昼過ぎより4時間弱の雪訓へ。アイゼン・ワカン練習もほどほどに、特に時間を掛けて行なったのが、滑落停止訓練、雪崩対策。

前者では急勾配での滑落を想定して行なったが、皆同様に膝下を持ち上げる姿勢がとれず苦勞した。原因はいくつか考えられるが、私感としては、ピッケルに気を取られ足先にまで気が回らない、恐怖心より無意識に足（アイゼン）で制動を掛けようとするため。

とっさに出来るよう訓練を重ねたい。

後者では、ビーコンとプローブで対象位置を特定し、スコップで掘り当てるゲーム形式で行った。ビーコンの性能差もあるのだろうが、概ね 50cm 圏内からの特定が極めて難しいように感じられた。クロスサーチの正確さ、迅速さの両立がカギである。何れも一朝一夕で身につくものではないため、雪山と縁遠い福岡県民としては、シーズンを問わず技術習得に励みたい。

テントに戻ってからは、ひたすら水作り…その甲斐あって、体温まるキノコづくしの鍋料理二品にありつくことができた。美味。H田さん、ありがとう。



〈2日目〉

目覚めは4時。#0、ダウンジャケット・パンツ、象足、これだけあれば、寒さとは無縁の一夜である。軟弱者で何が悪い。テント内整理とパッキングをすすめ、朝食へ。熱々のチャンポンを完食。I本さん、ありがとう。

この日は天気と雪質を勘案して、七号尾根と夏山登山道の何れかを経て、弥山に至る予定だったが、天候と新雪、七号尾根利用者の少なさから、タイムアップを避けるため、夏山登山道からの登頂を目指すこととなった。

白い。いざ出発し、軽快に樹林帯を抜けるが、稜線は真っ白、ホワイトアウト状態である。

先頭を任せられ、六合目避難小屋より先、トレースと目印のポールを頼りに歩みを進めるが、大事をとって引き返すよう指示があり、無念の下山となった。風雪強、雪庇少、登山者少。シリセード三昧でテントに戻ってからは、風が強く撤収作業に苦勞、寒さで体力を消耗。足早に下山、温泉で温まったのち、家路へ。



今回、入会后初の山行参加となりましたが、これまで単独メインだった私にとって、団体での雪山山行というものを経験する、大変いい機会となりました。企画してくださったF谷さんはじめ、ご一緒させていただいた皆さま、ビーコンその他装備をお貸し下さった皆さま、ありがとうございました。